



千葉 真一
水曜会
(50分)



デニムプロジェクトは

問 取り組みの成果と今後の方向性は。

答 ジャパンデニムブランドの立ち上げフクヤマモノシヨップの開店、デニム縫製スクールのヒトトイトによる人材確保の取り組みなど、さまざまな事業が生まれた。今後も官民一体となつてデニムの価値や魅力を高め、素材産業からブランド形成に至る大きな流れをつくることで、本市の繊維産業のさらなる発展につなげる。



デニム縫製の様子

福塩線の最寄り駅からのアクセス向上と利用促進は

問 I C O C A 対応の改札機の設置は。

答 これまで福塩線対策協議会において県を通じて府中駅までの導入をJR西日本に要望してきた。来年度には路線バスにも導入されることから、これまでの要望に加え、早期導入に向け協議会自ら要望を行う。



木村 素子
水曜会
(50分)



駅周辺の再生は

問 ①駅周辺での自転車の利用は。

答 ①福山駅前再生ビジョンでは、誰もが行きやすい駅前にするため自転車でもアクセスしやすい環境を整備することとしている。これに向け、福山駅前広場協議会においても自転車動線と歩行者動線の分離や自転車の駅前広場内への乗り入れの抑制、新たな駐輪場の設置の必要性などの意見が出されている。こうした意見も踏まえ、歩行者の安全のための自転車利用のルール作りや駐輪場の配置について検討する。

②2月の駅前広場協議会において、駅前大通りから伏見町北側にかけて乗降スペースを細長く配置する案と、駅前広場を全面的な広場とし、広場の外に交通ターミナルを配置する案の2つを示している。今年度末までには基本計画の中で整理していく。



小島 崇弘
誠友会
(50分)



公立就学前教育・保育施設の再整備は

問 基本的な考え方は。

答 施設の老朽化の状況も勘案しながら、就学前児童数の推移や保護者ニーズに応じた規模の施設を整備する。



休園した郷分幼稚園

保育士の確保は

問 ①配置基準の見直しで、新たに必要となる保育士はどのくらいと見込むか。

答 ②昨年度の実績は。また、今年度の新たな取り組みは。

①2024年3月の入所児童数から試算し、約60人と見込む。
②昨年度は33人の保育人材を確保した。今年度は、備後圏域へのU・Iターンを検討している潜在保育士などをターゲットとしたインターンシップ実証事業を実施しさらなる確保につなげる。